

稲作情報 10 号

気温高めで、生育ステージは減数分裂期、出穂期は 8 月 1 日の予想！

1 気象経過

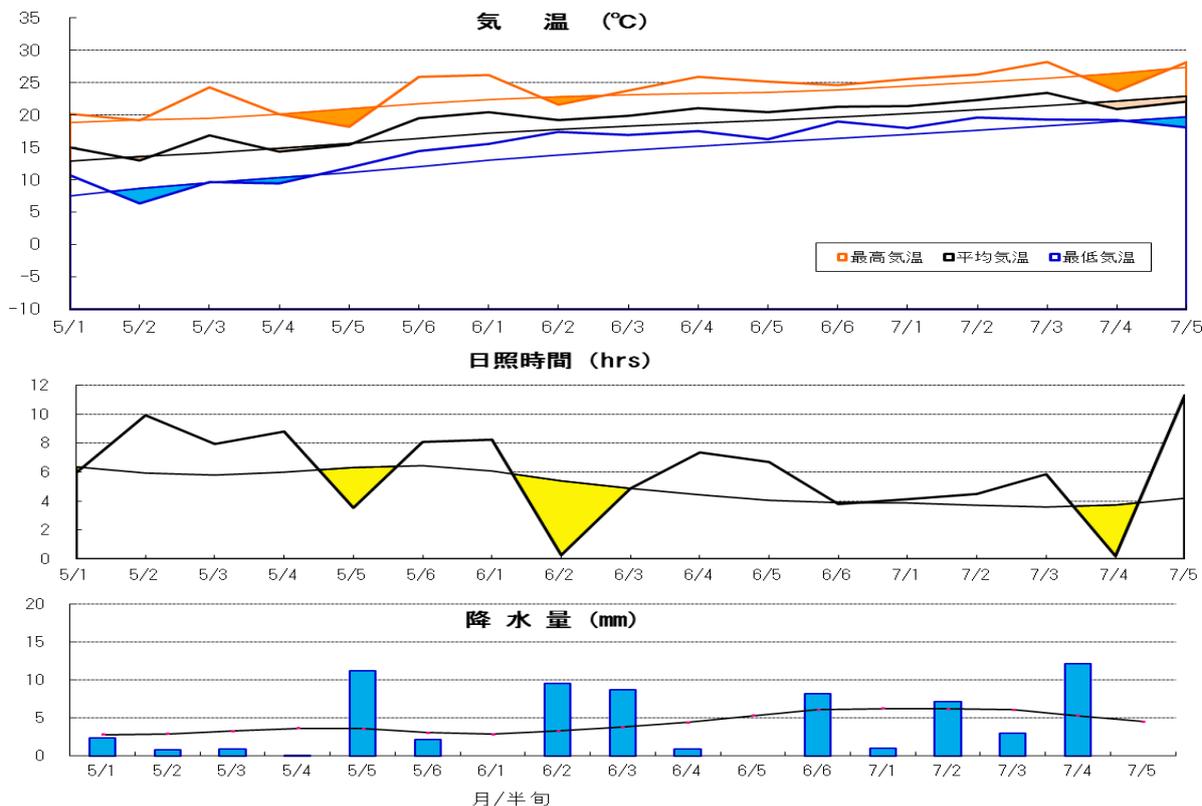


図-1 平成 26 年産水稲田植後の気象経過 (アメダス古川 半月別)

- ・気温は、7 月 18 日から 2 日ほど低かったものの、6 月以降高めに経過している。
- ・日照時間も同様に 18, 19 日少照だったものの、多照に経過している。(平年比 6 月 103%)
- ・6 月の降水量は、平年比 166%であったが、7 月は平年並みとなっている。

2 今後の気象予報

(1) 週間天気予報 (7 月 23 日～7 月 29 日)

- ・気圧の谷や前線の影響により、曇りや雨の日が多いが、期間の中頃は晴れる所もある。
- ・最高気温は、平年並の見込みです。最低気温は、平年より高いでしょう。

(2) 1 か月の天候予報(7 月 19 日～8 月 18 日)

- ・期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多く、期間の後半は、天気は数日の周期で変わる見込みです。
- ・向こう 1 か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに 40%です。
- ・降水量は、平年並または多い確率ともに 40%です。
- ・日照時間は、平年並または少ない確率ともに 40%です。
- ・気温は、1・2 週目は平年並の確率 50%で、3～4 週目は平年並か高い確率ともに 40%です。

[次回 1 か月予報公表 : 7 月 24 日]

3 生育状況

- ・ 水稻の生育は平年に比べて早く、生育ステージは、減数分裂期 (3cm～12cm) に達している。
- ・ 出穂期 (県全体の平均) は、8月1日頃になる見込みであるが、高温に経過する場合、さらに早まることが予想される。
- ・ 7月18日現在の生育については、草丈が72.1cm (平年比100%)、1㎡当たりの茎数が541本 (平年比107%)、葉数が12.0枚 (平年差+0.2枚)であった。
- ・ 葉色は、7月18日現在、ひとめぼれで35.1で減分期の期待葉色 (35～37) の下限値であるが、高温で更に葉色は低下することが予想される。

表－1 県内の水稻生育状況 (宮城県7月10日調査)

a. 県全体

県全体	草 丈			茎 数			葉 数			葉緑素計(GM)値			幼穂長 (mm)
	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/㎡)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本 年	前年差	平年差	
	72.1	99	100	541	108	107	12.0	0.1	0.2	35.3	▲ 0.3	1.6	42.9

b. 地帯区分別

地帯区分別	草 丈			茎 数			葉 数			葉緑素計(GM)値			幼穂長 (mm)
	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/㎡)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本 年	前年差	平年差	
北部平坦	72.2	99	100	569	106	105	12.1	0.4	0.3	34.3	▲ 1.3	0.5	50.1
南部平坦	75.2	96	100	464	101	116	11.8	▲ 0.6	0.1	35.0	▲ 0.3	2.6	46.7
仙台湾沿岸	71.0	100	101	504	108	123	12.1	0.4	0.5	35.6	0.1	▲ 1.4	27.2
西部丘陵	73.4	97	103	523	116	117	12.0	▲ 0.3	0.1	37.8	1.0	4.0	46.7
三陸沿岸	67.2	100	101	570	106	103	11.0	▲ 0.4	▲ 0.7	35.6	2.9	4.3	19.2

c. 品種別

品種別	草 丈			茎 数			葉 数			葉緑素計(GM)値			幼穂長 (mm)
	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/㎡)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本 年	前年差	平年差	
ひとめぼれ	71.5	99	100	531	106	106	11.9	0.0	0.2	35.1	▲ 0.3	1.6	47.0
ササニシキ	71.4	100	102	577	110	107	12.2	0.5	0.3	34.3	0.0	1.0	32.5
まなむすめ	77.2	94	101	528	111	116	12.2	0.0	0.2	38.6	▲ 0.6	2.5	39.8

※平年比：前5ヶ年 (平成21年～25年) の平均値との比較

※葉緑素計(GM)値：葉に含まれている葉緑素(クロロフィル)量の測定値で、栄養状態を把握するもの。

4 今後の管理

(1) 水管理

- ◆ 気温が高めに経過する予報が継続しており、白未熟粒の発生などによる高温障害が懸念されることから、穂の周辺環境温度を下げる管理が必要である。
- ◆ そのため、水の駆け引きが唯一の手段であり、冷たい水のかけ流しが有効であるが、かけ流しが出来ない地域では、日中の暑い時期に深水にし、夜は気温が低下したら落水する。

(2) 追肥

- ・ 葉色が低下している圃場が多いと思われ、最近の白未熟粒発生の問題を回避するため、減数分裂期に追肥し、窒素不足にならないように、注意する。

(3) いもち病

- ・ 7月11～15日の病虫害防除所の巡回調査の結果、葉いもちの発生地点率は8.6%で平年(5.5%)を上回り(図2)、一部のほ場では、進行型の病斑が確認された。
- ・ 感染好適日の推定(BLASTAM)では、県全域で感染好適日が出現したため、7月18～21日以降、上位葉で新しい病斑が発生する可能性がある。
- ・ 箱施用剤や水面施用剤の効果が低下する時期になっており、水田を見回り、葉いもちの病斑が認められたら、直ちに茎葉散布剤による防除を実施する。
- ・ 追肥後は、一時的に稲体の窒素濃度が高まり、抵抗力が低下するので発生に注意する。

- ・上位葉での葉いもちは穂いもちの伝染源となり、収量や品質に直接影響する。



〔普及センターHP等引用〕

(4) 紋枯病

- ・同じく、巡回調査の結果、紋枯病の発生地点率は8.6%で、平年(7.8%)と同程度だった(図2)。
- ・紋枯病の発生が要防除水準(株率で15%)に達した場合や昨年、発生が多かったほ場では今年も多発が懸念されるので、特に発生に注意する。
- ・茎葉散布剤の散布適期は穂ばらみ期から出穂期で、登熟期間中の降雨日数が多くなると予想され、病勢の進展が懸念される場合は、穂揃期頃の追加防除を実施する。

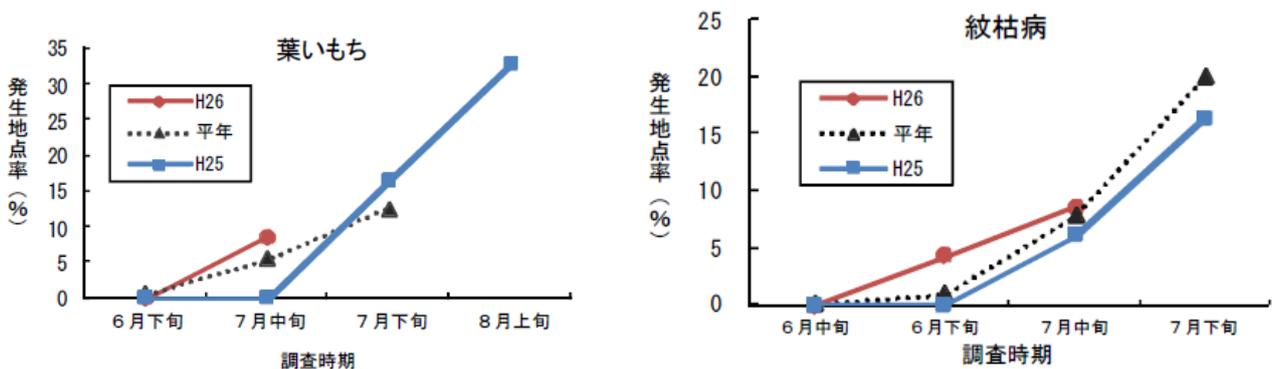


図-2 葉いもちと紋枯れ病の発生地点率 (病虫害防除所)

(5) カメムシ防除 (斑点米カメムシの注意報1号発令)

- ・水田周辺のカメムシ類の密度を低くするため、牧草の刈取りや雑草地の草刈りは、出穂の10日前までに刈り終える。(出穂が早まる予想なので、刈り遅れに注意)
- ・水田内にイナカクイやヒエが多い圃場ではカメムシの発生が多くなるので、注意を要する。

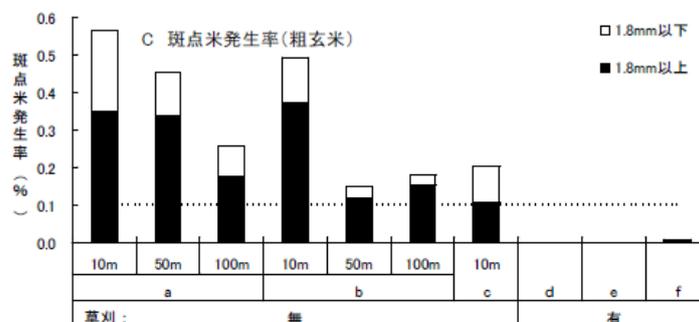


図-3 斑点米発生率に対する牧草地の草刈りの影響